

中山間地域で稲作を守るふるさとづくり (平成16年度認定)



渡嘉敷島は、島全体の9割近くが山林で占められていて、そこを源とする川の水量が豊富なため古くから稲作を中心とした農業が営まれている。しかしながら、本村も例に漏れず農家の高齢化が進み、稲作を中心とした農業の継続が危ぶまれた時期があり、その時本村の農業を支えて来たのが農用地利用改善組合による農作業の受託である。村の補助と受益者の負担により農作業機械を購入し、田植えから収穫までの農作業を機械化することにより、高齢化した農家でも稲作が維持できるようになった。

近年は、その水田を活用した体験学習も盛んになり、渡嘉敷小学校と阿波連小学校の子供たちが、農家から提供された10アールほどの田んぼを利用して、田植えや稲刈りなどの体験学習を行っている。

また、稲作農業を維持していくことにより、沖縄本島内ではあまり見られなくなったのどかな田園風景が、渡嘉敷島の貴重な財産となり、島を訪れる人々のこころの癒しとやすらぎを提供し、都市と農村との地域間交流の場として活用されている。

渡嘉敷地区で最大のイベントが大綱ひきで、毎年旧暦の6月25日に稲わらで作られる大綱を東西に分かれて引き合い、東が勝てば豊漁、西が勝てば豊作を祝う、これもまた稲作農家が支える伝統行事である。

